

福島の復興・創生に関する
高校生と九都県市首脳との意見交換会
記 録

平成 28 年 10 月 26 日（水）

福島の復興・創生に関する高校生と九都県市首脳との意見交換会

I 日 時 平成 28 年 10 月 26 日（水）
午前 11 時 30 分～午後 0 時 50 分

II 場 所 パシフィコ横浜 会議センター 5 階「503」

III 次 第

1 開 会

2 あいさつ

（1）座長あいさつ

（2）福島県副知事あいさつ

3 九都県市による福島の復興・創生に関する報告

4 高校生からの取組紹介

（1）福島復興の課題

（福島県立福島高等学校スーパーサイエンス部の取組）

（2）東北復興支援フットサルイベント

～K I C K O F F 明日へ 仲間へ～

（横浜市立みなと総合高等学校女子フットサル部の取組）

5 意見交換

（1）高校生による意見交換【ファシリテーター：熊谷千葉市長】

（2）高校生と首脳の意見交換

6 まとめ

7 閉 会

IV 出席者

福島県立福島高等学校スーパーサイエンス部の皆様

鈴木 太朗

法井 美空

熊谷 りさ

佐々木 絢奈

横浜市立みなと総合高等学校女子フットサル部の皆様

若林 明日香

柴本 あゆみ

浅田 恵美

設楽 乃愛

横浜市立横浜商業高等学校の皆様

福士 紗英

原田 桃子

横浜市立南高等学校の皆様

西村 俊祐

長谷川 七海

横浜市立桜丘高等学校の皆様

青木 拓哉

梅木 朗

福島県副知事

鈴木 正晃

埼玉県副知事

塩川 修

千葉県知事

森田 健作

東京都知事

小池 百合子

神奈川県知事

黒岩 祐治

横浜市長(座長)

林 文子

川崎市長

福田 紀彦

千葉市長

熊谷 俊人

相模原市長

加山 俊夫

1 開 会

○事務局

皆様、おはようございます。定刻より1分ほど早いですが、おそろいになりましたので、ただいまから福島の復興・創生に関する高校生と九都県市首脳との意見交換会を開会いたします。私は本日の司会を務めます横浜市政策局大都市制度推進室長の橋田でございます。よろしくお願いいたします。

本日の福島の復興・創生に関する高校生と九都県市首脳との意見交換会は、本年5月に開催した第69回首脳会議における意見交換を踏まえた九都県市首脳会議として初めての取組です。

福島県からは県立福島高等学校スーパーサイエンス部の皆様、鈴木正晃福島県副知事においでいただきました。

また、開催市であります横浜市立みなと総合高等学校女子フットサル部の皆様、横浜商業高等学校、南高等学校、桜丘高等学校の皆様をお招きしています。

なお、埼玉県からは上田知事の代理で塩川副知事がご出席です。

清水さいたま市長におかれましては、本日の意見交換会は所用のため、欠席されております。

本日の座長は、本年の九都県市首脳会議座長である林横浜市長が務めます。初めに座長からあいさつをいたします。林市長、よろしくお願いいたします。

2 あいさつ

(1) 座長あいさつ

○座長（林横浜市長）

皆様、おはようございます。横浜市長の林文子です。ただいま司会からごあいさつ申し上げましたが、この意見交換会は今年5月に福島県で開催した春の九都県市首脳会議におきまして、熊谷千葉市長から、福島の未来の復興のリーダーとなる福島県の高校生を是非首都圏にお招きして、お話を伺いたいとご提案がありまして、九都県市首脳会議として初めて開催いたします。70回目のこの会議ですが、こういった形で皆様をお招きするのは初めてでございます。

また、本日は東京都の小池新知事が九都県市首脳会議に初のご参加となります。小池知事、どうぞよろしくお願いいたします。知事には午後の首脳会議においてごあいさつを

賜りたいと存じます。

5月の首脳会議では、福島県の被災者の方の大変なご苦勞や復興の状況を伺いまして、内堀知事からも福島県が置かれたありのままの状況をご説明いただきました。福島県は復興への道のりを徐々に進んでいるものの、未だ困難な課題も多くあることを首脳の皆様と共有いたしました。私も首都圏が一体となった支援に一層取り組まなくてはならないという思いを強く持ちながら本日を迎えました。

今月 19 日には、内堀知事がニューヨークの国連本部で、「福島県の状況が世界全体に正確に伝わっていない現状がある。たくさんの方々に状況を正確に知っていただきたい。」とのアピールをされたと伺っております。

本日は、福島県の高校生の皆さん、横浜市の高校生の皆さん、そして福島県の鈴木副知事にもおいでいただき、福島の復興・創生に向けて意見交換をしております。本日の意見交換が、福島県の課題や現状をより多くの皆様に知っていただくきっかけになればと思います。

改めまして、福島高校、みなと総合高校、横浜商業高校、南高校、桜丘高校の皆さん、鈴木副知事、ようこそ九都県市首脳会議においでいただきました。

高校生の皆さんからどのようなお話を伺えるか、大変楽しみにしております。どうぞ緊張なさらず、リラックスして自由にご意見を述べていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

続きまして、福島県の鈴木副知事からごあいさつをお願いいたします。

(2) 福島県副知事あいさつ

○鈴木福島県副知事

皆さん、こんにちは。福島県副知事の鈴木正晃と申します。

九都県市首脳の皆様、本日は福島県の高校生とともにお招きをいただきまして、誠にありがとうございます。皆様には避難者の受け入れ、職員の派遣、さらには本県の観光、教育旅行のPR、県産品の活用など、様々なご支援をいただいております、厚く御礼を申し上げます。

この5月には首脳会議を首都圏以外で初めて開催していただき、本県をより一層応援

していくとの共同宣言をいただきまして、医療人材派遣に向けた検討、それから再生可能エネルギー関連産業等に関する情報交換など、新たな取組を進めていただいております。本県にとって大変心強いことでありまして、心より深く感謝を申し上げます。

東日本大震災から5年7か月余りが経過いたしました。今なお約8万人を超える県民の方々が県内外に避難しており、また風評・風化の問題など様々な課題があり、本県の復興はいまだ途上でございます。

一方で、避難指示の解除も進んでおりまして、ふるさとへの帰還に向けた動きが進んでいるほか、未来を開く様々な拠点施設整備の伸展、観光地のにぎわいなど、福島復興は着実に前進しております。こうした流れを力強く確かなものとするために、今後とも福島県に思いを寄せてくださるすべての方々にお力添えをいただきながら、復興をさらに前に進めていきたいと思っておりますので、皆様には引き続きお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

本日は、福島の未来を担う高校生と、復興支援に取り組む横浜市の高校生の皆さんの活動報告、意見交換を通じて、福島の復興へ寄せる思いを共有いただければ幸いだと思っております。

結びに、ご出席の皆様のご健勝・ご活躍を心から祈念して、御礼の言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。

○事務局

鈴木副知事、ありがとうございました。

ここで、報道関係者の皆様にお知らせいたします。事務局席の後方にいらっしゃる報道関係者の皆様は、恐れ入りますが、この後、高校生のプレゼンテーションがありますので、左右の撮影エリアに移動をお願いいたします。

それでは、林市長、よろしくお願いいたします。

3 九都県市による福島の復興・創生に関する報告

○座長（林横浜市長）

本日の進行ですが、5月に福島県で開催した首脳会議において、「福島の復興・創生に向けた九都県市共同宣言」を内堀知事にお渡しして、私たち九都県市として、福島の復興・創生に向けて、様々なご支援をしております。初めに、その取組についてご報告いたします。

その後、福島高校及びみなと総合高校の皆さんからそれぞれ震災からの復興や支援に関する取組を紹介いただき、高校生の皆さんによる意見交換をお願いいたします。高校生間の意見交換のファシリテーターは、今回の意見交換会を提案された熊谷千葉市長にお願いしたいと思います。

その後、高校生と首脳の意見交換へとつなげてまいります。

それでは、福島の復興・創生への支援について、事務局から報告いたします。

○事務局

お手元にお配りしております「高校生と九都縣市首脳との意見交換会」の5ページをご覧ください。

これまで九都縣市首脳会議は、平成25年11月の会議において共同宣言を採択し、福島県の支援について、様々取り組んでまいりました。

本年5月に福島県で開催した首脳会議において、「福島の復興・創生に向けた九都縣市共同宣言」を採択し、内堀知事にお渡しいたしました。宣言では、福島県に関する正しい情報発信、県産品・観光PRなど、引き続き九都縣市が福島県の復興・創生に向けて連携して取り組んでいくこと、また復興・創生期間の5年間で国の取組が一層加速するよう、国への働きかけを行うことの2点を取りまとめました。

具体的な取組については、「福島の復興・創生に向けた九都縣市の取組」という資料をお配りしております。ご参照ください。

1ページ目にあります各種広報やイベント等における支援として、九都縣市の広報誌に福島県のPR記事を掲載いたしました。また、来年3月にも一斉掲載をする予定としております。

続きまして、2ページ目でございます。スポーツや文化イベント等での福島県のブース出店のほか、新たな取組といたしまして、2ページ目の下でございますが、福島県のPRポスターに九都縣市のクレジットを入れ、庁舎、あるいは鉄道駅などに掲出を行っております。

また、3ページ目でございますが、庁舎ロビーなどでの動画放映、経済団体への呼びかけ等について、昨年度から引き続き取り組んでおります。

4ページ目をご覧ください。各都縣市において、福島県への教育旅行の呼びかけ等を行い、モニターツアーの参加者も大変増加しております。そのほか、専門人材確保の支援の検討や、福島県と九都縣市の住民の皆様同士の交流機会の創出など、各都縣市が工夫し

ながら取り組んでいるところです。

また、国への働きかけについても、今後実施していく予定です。

報告は以上です。

○座長（林横浜市長）

ありがとうございました。各都県市においてそれぞれ工夫し、また九都県市で連携しながら、正しい情報発信、福島県産品や観光のPRなどに取り組んでいることについて報告がありました。

首脳の皆さんからそれぞれの取組について補足のご紹介等もあると思いますが、それについては後ほどの意見交換でご発言いただければと思います。

4 高校生からの取組紹介

（1）福島復興の課題（福島県立福島高等学校スーパーサイエンス部の取組）

○座長（林横浜市長）

それでは、続いて高校生の皆さんから取組をご紹介します。

最初に福島県立福島高等学校スーパーサイエンス部の皆さんから「福島復興の課題」について、ご紹介いただきます。

この福島高校スーパーサイエンス部は、平成19年に同校がスーパーサイエンスハイスクールに指定された際に、科学部、生物部などを統合し創部されました。今日ご参加いただいた放射線班の活動内容は、イギリスの科学誌に掲載されたほか、各種コンテスト等で賞を受けられ、またミラノ万博や外国人特派員協会などでも発表されています。

今回発表いただく取組は、内堀福島県知事が様々な場面で行っていらっしゃる復興に向けたプレゼンテーションの中でも触れていらっしゃるということです。

本日は、部長の鈴木太朗さん、副部長の法井美空さん、熊谷りささん、佐々木絢奈さんにご参加いただいておりますが、熊谷さん、法井さんのお2人が代表して発表してください。それでは、どうぞよろしく申し上げます。

○福島高等学校 熊谷

ただいま、ご紹介にあずかりました福島高校の熊谷りさです。

○福島高等学校 法井

法井美空です。

○福島高等学校 熊谷

このたびは、このような機会を設けていただき、誠にありがとうございます。私たちが「福島復興の課題」ということで発表させていただきます。

まず、部活動です。スーパーサイエンス部放射線班は、福島県内外の高校生線量調査に取り組んでいます。私たちの出発点である 2014 年の研究では、県内 6 校、県外 6 校、海外 12 の地域の 216 名の方に協力していただきました。研究の中で、福島県に住む高校生の個人線量が他地域に比べ特別高い値をとるわけではないということがわかりました。実際のデータがこちらですが、この研究内容は論文にして投稿し、昨年秋、「J R P (Journal of Radiological Protection)」に掲載されました。既に 6 万 5,000 件を超えるダウンロードをしていただいています。このほかにも私たちは、今年度でも福島高校、マレーシア、インドネシアの高校生の線量測定、福島高校に近い信夫山の測定や校内線量マップの作成などの活動をしています。

そういった活動のもとで、私たちが感じる福島復興の課題とは、福島の現状をより多くの人に自分たちの目で見て理解してもらう必要があるというものです。福島に不安や偏見を持った人がいるのに対し、実際、研究でわかったように、福島の高校生の放射線量は他地域と比べ大きな差はなく、生活に問題はありません。このギャップを埋めるためには、実際に福島の現状を目で見てもらう必要があると感じました。

私たち福島高校では、2013 年から「放射線防護ワークショップ」を開き、今年 2016 年 8 月には東京と 3 つの国からの 17 人の高校生を招いて、放射線について、福島の復興について、議論する機会を設けました。この、福島を目で見てみるというワークショップの前には、「福島ってゴーストタウンなのかなあ?」「健康に影響はないのかな?」「福島の食べ物は危険だから食べられない?」「福島に行くことは危険なこと?」などというマイナスイメージが参加者にありました。

○福島高等学校 法井

そのようなマイナスイメージを持った高校生がいる中で、私たちはたくさんの活動をしたのですが、その中の 1 つが線量測定です。私たちは福島県内の浜通りも中通りも会津地方も、全てを皆で回ったのですが、その中で空間線量の測定をしたり、それから個人線量計を常に身につけて、どれだけ被ばくしているのかということ測定したり、桃農家に実際に行って、桃をその場で食べて、福島の桃を味わったり、鶴ヶ城に行って、被災地としての福島だけではなく、観光地としての福島も楽しんでもらいました。そこで学んだこ

とを皆で意見交換して、その後プレゼンをつくり、それを自分の言葉で皆に発表することで、より意見を深めるという活動をしました。

そのようなワークショップを通して、海外の人からも東京の高校生からも、「また福島に来たい」といった意見だったり、「福島の食べ物、おいしいね」と言ってもらえたり、あと「福島の自然の景色はとても美しいね」と言ってもらえて、私たちはとてもうれしい気持ちになりました。

では、なぜそもそも福島に対する偏見や不安が生まれ、私たちはそれらを払拭しなければならぬのでしょうか。偏見や不安によって引き起こされる問題はたくさんあるのですが、その中で私たちは今回、農業と観光と避難という3つの課題に着目することにしました。

まず1つ目は農業です。事故発生後、福島県内に放射性物質がまき散らされたことは、事実としてはあります。しかし、現在福島の食べ物、出荷されている野菜だったり、果物だったり、お米だったりはずべて検査済みで、安全が証明されて出荷されています。それにもかかわらず、福島県外の人にも県内の人にも、こういった福島県産のものには放射性物質が多く含まれているのではないかという不安がまだ残っています。そのことによって、福島の農家たちは、安全が証明されて、それで出荷されているにもかかわらず、買ってもらえないために価格が低下して収入が得られなかったり、生計が立てられなかったりしているという事実があります。

2つ目は観光です。福島県内には、震災前は修学旅行やキャンプで訪れてくださった学生の方が67万人いました。しかし、震災が起きた2011年にはそれが約13万人にまで減りました。これは震災後で、福島のほうでも受け入れ体制が整っていなかったのももちろんそれはしょうがないことなのですが、2014年の時点でもまだ35万人しか戻ってきていないという事実があって、現在でもいまだ50%の減少が見られています。原発事故があった福島では、福島を観光地として見るだけではなく、復興の過程を見に来る高校生などもいらっやあって、観光地だけではなくて、学びの場としての福島もたくさん見ていただきたいと思っています。

3つ目は帰還の問題です。事故発生後、福島から避難を余儀なくされた人たちがたくさんいました。現在でも避難を余儀なくされている方はいらっやるのですが、少しずつ帰還が始まっています。しかし、避難指示が解除されても、県外で暮らしを組み立てていらっやあって戻ってこない方とか、放射線が不安だという方もまだ少なからずいて、戻っ

てくる方はほとんどが中高齢者で、被災地では少子高齢化が急速に進んでいます。この問題は、今現在少子高齢化が進んでいる日本の未来の課題を投影しているものと考えられると思います。

このような課題を解決するためには、まず農業に関しては、偏見を持たずに作物自体の魅力をしっかり目で見てほしいと思います。それから、観光に関しては、観光地として魅力あふれるだけではなくて、被災したからこそ学びが得られる現在の福島をもっとたくさんの方に知ってほしいと思います。それから、帰還に関しては、少子高齢化を反映していて、これは日本の未来の投影だとも考えることができるので、この状況に対して対策を立てていくことで、日本の未来に生かせるのではないかという見方もできると思います。

これらの問題を見てもわかるとおり、福島の問題というのは、決して福島県内だけで解決できるローカルな問題ではありません。福島県内の人ももちろんですが、県外の人にも協力していただくことで、復興がもっと進むのだと思います。

それから、このようなローカルな問題ではない問題を解決する1つの手段として、放射線教育を取り入れるべきではないかと私たちは考えています。偏見や不安というものは、放射線に対する知識が少なくて起きてしまうということも原因の1つにあると思うので、放射線教育を取り入れていただきたいと思っています。

以上で私たちの発表を終わります。ありがとうございました。

○座長（林横浜市長）

熊谷さん、法井さん、本当に素晴らしいプレゼンテーションをありがとうございました。

（2）東北復興支援フットサルイベント～K I C K O F F 明日へ 仲間へ～

（横浜市立みなと総合高等学校女子フットサル部の取組）

○座長（林横浜市長）

それでは続きまして、横浜市立みなと総合高等学校女子フットサル部の皆様から、「東北復興支援フットサルイベント～K I C K O F F 明日へ 仲間へ～」をご紹介いただきます。

みなと総合高校女子フットサル部は平成16年に創部、「1つのボールを通じていろいろな人と出会い、心身ともに成長する」などをモットーに、公式大会で好成績をおさめるだけでなく、少年チームや社会人などとの交流、企業やJリーガーと共催し、児童養護施

設の子どもたちを招待するイベントなども行っています。

今回発表いただく取組は、震災翌年の 2012 年から継続して行われているということで、新聞などでも取り上げられています。

本日は 12 期のキャプテンで卒業生の若林明日香さん、13 期キャプテンの柴本あゆみさん、部長の浅田恵美さん、マネージャーの設楽乃愛さんに参加していただいておりますが、柴本さん、設楽さんのお二人が代表して発表してくださいませ。

それでは、どうぞよろしく願いいたします。

○みなと総合高等学校 設楽

こんにちは。ご紹介にあずかりました横浜市立みなと総合高校女子フットサル部の 2 年、設楽乃愛と。

○みなと総合高等学校 浅田

同じく 3 年、浅田恵美と。

○みなと総合高等学校 柴本

同じく 3 年、柴本あゆみです。よろしく願いします。

○みなと総合高等学校 設楽

本日は、私たち女子フットサル部が行ってきた 6 回にわたる「東北復興支援フットサルイベント」についてご説明したいと思います。

まず初めに、私たちが東北のためにできることを考えたときに、「一緒にボールを蹴って笑顔になってほしい。」「横浜を観光して笑顔になってほしい。」という思いが出ました。

そこで、フットサルのイベントを企画しているスマイルフットサルさんと協力し、このイベントを開催しました。

こちらが企業人からの協力なのですが、こんなにもたくさんの方々から協力をいただいています。中でも、こちらの近賀ゆかり選手は、イベントには来ていただけなかったのですが、毎回サイン入りグッズなどの協力をいただいています。

そして、「第 1 回東北復興支援フットサルイベント」では、盛岡、宮城、福島から有志チームを招待しました。そのときは、横浜観光とフットサル大会を行いました。当時の先輩方の、男性だけでなく福島の女子高生を呼びたいという思いから、第 2 回目では富岡高校女子サッカー部を招待しました。そのときはホームステイ、横浜観光、フットサル大会を行いました。そのときに「がんばっぺ福島!!」という方言を覚えてもらい、今後のポスターでは必ず入れるようにしています。

そのときの写真です。横浜観光で中華街へ行きました。そのときにプリクラなども撮ったりしました。こちらがホームステイのときの写真です。そして、こちらの写真は、私たちのみなと総合高校にはプレイヤーのユニホームが2種類ありまして、今も着ていますが、1つがこちらの青いユニホームで、もう一つがこちらの富岡高校さんが着ている灰色のユニホームと偶然にも一緒でした。そして、こちらが試合の様子です。富岡高校さんのこんなすてきな笑顔を見ることができて、私たちも笑顔になれました。そして、こちらが全体の集合写真なのですが、こちらの黄色いボールは私たちからメッセージを書いて、富岡高校さんに送らせていただきました。

そして、第3回目でも富岡高校女子サッカー部を招待しました。このときは横浜市教育委員会の岡田優子教育長にも来ていただきました。ご紹介が遅れましたが、こちらのポスターは、私たちのみなと総合高校の8期生の先輩に毎回作成していただいています。先ほど話した「がんばっぺ福島!!」という文字も入れています。

このときは横浜駅で富岡高校さんをお出迎えして、シーバスでみなとみらいまで移動しました。こちらがみなとみらいをバックに皆で写真を撮ったときのものです。ホームステイの写真です。こちらの写真もそうなのですが、今、私が着ているこのマネージャーのユニホームと、当時の富岡高校さんのユニホームがこれまた偶然一緒でした。3種類のユニホームが一緒になるなんて、何かの縁があるのではないかと思います。こちらが岡田教育長とY. S. C. C. (Yokohama Sports & Culture Club) のキャプテンとの写真です。教育長には始球式でPKをやっていただいて、見事決めていただきました。第3回目の復興イベントからこのようにアーチで富岡高校さんをお見送りするようになりました。

○みなと総合高等学校 柴本

そして、第4回目では、このときは少し都合が合わず、富岡高校さんを招待することができなかったのですが、この大会収益でサッカー用品を富岡高校さんに送らせていただきました。こちらが富岡高校さんから送られてきた写真です。このプレハブ校舎で頑張っている彼女たちの姿を見て、勇気づけたいと思っていた私たちが逆に勇気をもらうことができました。

そして、第5回目では、富岡高校女子サッカー部さんを招待し、中華街観光、フットサル大会を行いました。この横断幕は、第2回目のときにもあったと思うのですが、こちらは毎回アートで社会を支援するクリエイターの皆様、JMAA（一般財団法人日本メディアアート協会）さんの協力で作っています。このときもアーチをつくってお見送りし

ました。

第6回目では、富岡高校、ふたば未来学園サッカー部さんを招待しました。そして、宮城県立迫桜高校農業系列さんの協力で、お米・復興カレーの販売を行いました。このときも横断幕をつくりました。迫桜高校さんです。アーチでお見送りしました。全体の写真です。

そして、お手元の資料に復興支援を始めた9期から12期までのキャプテンの想いが書いてあるので、見ていただけると幸いです。

ここには書いていないのですが、富岡高校のキャプテンが「卒業してもこの活動に参加したい。そして、またここに戻ってきたい」と言ってくれたことで、私たちがこの活動を行っていた意味、またこの活動を続けていかなければいけないということに気づかされました。

最後に、『みなと』と『未来』ということで、私たち横浜市立みなと総合高校と震災後に設立された福島県立ふたば未来学園には、偶然にも総合学科という共通点があります。そして、この活動を次につなげていくためにも、私たちの代で終わらせないためにも、例えば姉妹校提携などを組み、交流を続けていけたらと思っています。

以上が、私たちがボールを通じて行ってきた活動報告です。ご清聴ありがとうございました。

○座長（林横浜市長）

柴本さん、設楽さんのお2人のプレゼンテーション、本当にありがとうございました。

福島高校の皆さんの現状課題が大変しっかりされていて、なおかつ非常に地道に活動されて、これからの福島についてもしっかりと何をやるべきかということをおっしゃったことに、私は非常に感銘しました。

また、みなと総合高校からのとても心温まる交流活動についても、本当に感銘しました。本当にありがとうございました。

それでは、次に進めさせていただきます。その前に事務局から連絡がございます。どうぞお願いします。

○事務局

報道関係の皆さんにお知らせです。撮影はここまでという形でお願いいたします。速やかに報道関係者席のほうに移動いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

それでは、再開をお願いいたします。

5 意見交換

(1) 高校生による意見交換【ファシリテーター：熊谷千葉市長】

○座長（林横浜市長）

それでは、ここからは、ただ今の取組紹介を踏まえて、高校生の皆さん同士で感じたことなどについて、熊谷市長にファシリテーターをお願いして、意見交換を行いたいと思います。

それでは、熊谷市長、よろしく願いいたします。

○熊谷千葉市長

千葉市長の熊谷です。福島高校とみなと総合高校の皆さん、発表をありがとうございました。私も林市長と同じく大変感銘を受け、私たちに何ができるのかということを改めて考えさせられました。

今回は、それぞれ高校生の皆さん方同士で意見交換をしていただきたいと思います。両校の発表を受けて感じたこと、もしくは自分たちでできること、もしくはそれに向けて聞いてみたいこと、様々あったかと思いますので、まずはほかの高校の皆さん方から何か意見や質問等があれば、お願いいたします。

では、真っ先に挙がった横浜商業高校の福士さん、お願いします。

○横浜商業高等学校 福士

横浜市立横浜商業高校3年の福士紗英と申します。みなと総合高校さん、福島高校さん、プレゼンテーションをありがとうございました。どちらのプレゼンテーションも福島のためを思って熱心に活動されているなと思って、とても感心しました。私も是非参加してみたいと思いました。

福島高校さんに質問なのですが、福島高校さんのプレゼンテーションの中でも挙がっていましたけれども、震災の影響で福島のイメージというものがものすごく変わって、不安とか、危険とか、いろいろなイメージが生まれてしまっています。また、福島が安全であるとか、福島へ行ってみたいなど、私たち若者だけではなく、日本の皆さんや海外の皆さんに思っていたくためには、具体的に誰がどのような活動をしていくべきだと思われましたか。

○熊谷千葉市長

ご質問ありがとうございます。では、福島高校の皆さん、どなたかお答えいただけま

すか。では、部長の鈴木さん、お願いします。

○福島高等学校 鈴木

部長の鈴木太朗といいます。どのような人がどのような活動をしていくべきかという質問だったのですが、一概には言えないのですけれども、例えば農業とか、そういった関係の方々でしたら、もちろん福島の作物は安全だよとか、そういった事実を他県であったり、他地域の方々に、今の時代ならSNSなどでアピールすることもできます。あと、実際に福島で活動している藤田浩志さんという方がいらっしゃるのですが、その方は郡山のほうで活動されていまして、「開成マルシェ」といったような福島の農作物の魅力をアピールするという活動をしていらっしゃいます。

とにかく、それぞれの方々がそれぞれの産業であったり、いろいろ仕事をされていると思うのですが、危険ではないという事実をアピールするとともに、自分の提供している商品そのものの魅力を他地域の方々にアピールすることができれば、復興につながるのではないかと考えています。

○熊谷千葉市長

ありがとうございます。福士さん、よろしいですか。ちなみに、福島の人たち自身が周りに伝えていくということも大事だと思いますし、また福島県外の人たちも何かすべきではないかというところも恐らく福士さんは伺いたかったのではないかと思いますので、もし福島高校のほかのお三方の中で、福島県外の人たちに例えばこういうことをやってほしいということは何かありますか。では、熊谷さん、お願いします。

○福島高等学校 熊谷

福島高校の熊谷りさです。県外の方にやってほしいことですが、先ほどプレゼンテーションで申したように、福島には観光という魅力だけではなく、震災後、復興過程の学びの場という新しい魅力ができました。それを知ってもらうために、朝日新聞で報道されていたように、35万人が戻ったと言っていましたが、団体が少人数で、学校というよりは、例えば部活動だったり、本当に学びの場としてやってきてくれる方がいらっしゃいます。そういう少人数で、勉強の場として来てくださるのがいいのではないかと私は思っています。

○熊谷千葉市長

ありがとうございます。学びの場という大変重要なテーマが出てきたと思います。私も阪神淡路大震災の被災者ですが、やはり被災者というのは、頑張ってくれとか、応援し

ますだけよりも、自分たちの経験がほかの人の役に立つというのもまた非常に勇気づけられるところだと思いますので、大変いい意見をいただいたのではないかと思います。

それでは、ほかにまだ2校ございますので、もしよろしければ南高校、そして桜丘高校の皆さん方から、2校に対して何か聞きたいことや感じたいことがあればいかがですか。では、最初に手を挙げてくれた桜丘高校の梅木君、お願いします。

○桜丘高等学校 梅木

桜丘高校の梅木と申します。私の祖母も自宅が宮城県の女川町で津波の被害に遭い、とても悲しい思いをしました。福島高校の皆さんも同様に津波の被害に遭い、またそれに加えて原発事故による風評被害もあった中で、くじけることなくこのような活動をされていて、本当に同じ高校生として尊敬しています。

質問ですが、プレゼンの中で復興の課題として、「福島の現状を多くの人に見てもらふ必要がある」とありましたが、ワークショップ以外にこの課題を解決するために取り組んできた活動や、今、取り組んでいる活動などはありますか。

○熊谷千葉市長

ご質問に対してお答えいただけますか。では、法井さん、お願いします。

○福島高等学校 熊谷

すみません、代わります。

○熊谷千葉市長

では、熊谷さん、お願いします。

○福島高等学校 熊谷

具体的に、一番大きいのが、この「放射線防護ワークショップ」というワークショップで、そのほかに私たちがやっていることといえば、放射線班のプレゼンがあります。今回やらせていただいたプレゼンとは違い、研究内容も、福島県内の高校生の放射線量は他地域と比べてあまり高い値ではないという結果をまとめた論文だったり、プレゼンをほかの場所で、例えば県外に行ったり、海外に行ったりでプレゼンをして、そのような形で一応プレゼンとしては福島県内の事情をお伝えしているということはやっていますが、具体的に放射線防護ワークショップのように、放射線以外の形でほかの人に伝えているということはまだやっていません。

○熊谷千葉市長

ありがとうございます。例えば、梅木さんのほうから、この「放射線防護ワークショ

ップ」以外に福島、もしくは福島の高校生などから、こういう福島の話を知りたいとか、そういう逆に聞きたいこと、知りたいことというのは、どういうことがありますか。

○桜丘高等学校 梅木

福島のあまり詳しい観光名所などを知らない人が多いのではないかと高校生も思うので、それに関しても詳しく聞けたらいいと思います。

○熊谷千葉市長

では、どちらかという福島と同世代の人たちから福島の高校生がぐっとときそうな観光のよさなどを、同じ目線で発信してくれると結構響くという、そういう感じですか。

○桜丘高等学校 梅木

そうですね。同世代の人からの言葉のほうが、何というか。

○熊谷千葉市長

我々も修学旅行を増やしていこうと考えていますが、そのときに、行く当事者の子どもたち、生徒が行きたいとなるのが一番大事だと思います。是非そういう意味で、同世代からの発信も受けた上で行きたいというような感じが意見交換で出てまいりましたので、それはまた福島高校の皆さん方だったり、福島県のほかの高校生やそういう方々のご協力もいただきながら考えられるテーマではないかと思いました。

それでは、南高校のほうからも、もし何か聞いてみたい、意見してみたいということがあればお願いします。では、長谷川さん、お願いします。

○南高等学校 長谷川

先ほど「SNSを用いて発信するなど」という意見を鈴木さんからいただいたのですが、私はSNSというのをもっと活用して、福島のことを発信できると思います。SNSというのは、震災のときに連絡手段としてとても活躍したと思うのですが、その中でも今回私が提案したい案というのは、共有することに特化したSNSアプリなどを、例えばインスタグラムとか、今、若い人にとっても人気なのですけれども、そういうものを用いて福島のよさというのを発信していくのがいいと思います。例えば、今、人気のあるモデルさんとか、もちろんインスタグラムを利用している者もなのですが、影響力のあるユーザーの方がその土地に行くことでそれを発信して、同世代の人に福島の本当のよさを知ってもらう機会が増えたらと思います。

○熊谷千葉市長

ありがとうございます。インスタグラムを活用して、影響力のある人に実情・魅力を

発信してもらってはどうかというご質問がありました。これについて、これも福島高校の皆さん方にお答えいただくのもちょっとあれかと思うのですが、4人の中でSNS、例えばインスタグラムなどを使っている人はいますか。佐々木さん、じゃあちょっと振ってみましょうか。佐々木さん、お願いします。

インスタグラムなどで福島の実情を影響力のある人に発信してもらってはどうかということで、多分、福島の例えば生徒の立場からそういう人をお願いをしてみることですかね、それとも、そういうことを自分たちとしても期待するかという感じになるのですかね。どう思いますか。有名な人、例えば嵐とか、そういう人たちにインスタグラムなどで福島のことを発信してもらえれば、やはりそれは皆さん方にとっても勇気づけられますか。

○福島高等学校 佐々木

いいと思います。

○熊谷千葉市長

いいと思う。「いいね」みたいな感じでね。

○福島高等学校 佐々木

はい。

○熊谷千葉市長

いただきました、「いいね」を。鈴木部長、部長として。

○福島高等学校 鈴木

そういった有名な方々に福島の食べ物のおいしさなどをPRというか、発信していただくのはもちろんうれしいし、もし、発信していただけるなら、していただきたいのですが、ただ、こちらからそれをお願いして、発信していただくことだけはしたくありません。実際に食べていただいたその方の感想として福島の魅力を伝えていただくという、そういう状態が一番僕たちにとってはうれしい状態であるということを補足しておきます。

○熊谷千葉市長

鈴木部長、ありがとうございます。部長らしい締めまりのあるコメントをいただきました。

意見交換の中で、有名な人にやってもらおうとか、いろいろな意見があったのですが、私たちも含めて一人一人がまず自分でできることをやっていくということが一番大事なのではないかと思います。そういう意味では、時間も大分たちましたので、是非、ご自身で

まず自分のできることをやってみなと総合高校の皆さん方から、実際にそういうことをやろうと思ったきっかけですとか、また続けていくことの難しさや魅力であったり、もしくは、そういうことをほかの人たちにもやってほしいというような思いも含めて、何かご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。見合っているけれども、誰かな。では、柴本さん。

○みなと総合高等学校 柴本

横浜市立みなと総合高校の柴本です。やはり自分たちが行ってきて、こういうところにお呼びいただくまではそんなすごいことをやっているとは自分たちでは思っていなくて、ここに呼ばれて、今この場に立って、「ああ、すごいことをしていたんだな。」と思いました。あと、林市長からもさっきお話があったように、この活動を1回新聞に載せていただいた際に、私の小学校の先生と中学校の先生にちょうど会う機会があったのですが、そのときに「すごい活動をしているんだね。」と言ってもらえて、また、そのときにも、自分はとてもすごい大きな活動にかかわっているのだと思いました。そして、活動の中で、先ほどお話にもあったように、児童施設の子たちなどもお呼びして、その子たちも笑顔になっていて、そのようなところを見て、もっとこの活動を広げて、フットサルだけではなく、ほかにも団体スポーツというのはあると思うので、1つのボールで、1つの競技でいろいろな人に楽しさとかが伝わればいいのではないかと思います。

○熊谷千葉市長

柴本さん、ありがとうございます。本当にお一人お一人それぞれがフットサルというのを通してできることを考えた結果、今の活動になり、広がっていているのだと思います。そういう意味で、それぞれの立場で、それぞれだからこそできることを小さくてもやっていくことが、皆さん方の発表を受けて、皆が影響を受けるようになっていくのだと思います。

是非できれば最後に横浜商業、南高校、桜丘高校の3校の皆さん方から、何か自分たち自身で例えばこういうことをやってみようかなと思ったことなどを、アイデアベースでももちろん結構ですので、ご発言されていない方を中心に何かあれば、いかがでしょうか。こんなことがおもしろそうというようなことですね。発言した人でも大丈夫ですよ。では、原田さん、どうぞ。

○横浜商業高等学校 原田

横浜商業高校の原田桃子です。先ほど、南高校の長谷川さんが意見していたように、

インスタグラムなどのSNSを使った福島のアピールはとてもいいと思うのですが、SNSだと私も活用しているのですけれども、適当に流してしまうこともあるので、SNSだけでなく、学校同士での交流がもっと多くなればいいと思っています。横浜商業高校はまだ福島の高校との交流が少ないと感じているので、できればこちらのフットサル部のような活動を、NGOの部活でもより増やしていけたらいいと思いました。

○熊谷千葉市長

ありがとうございます。みなと総合高校からも姉妹校の話が少し出ましたが、やはり高校同士、同世代同士の人たちの実際の生の交流も継続的に影響を与えていくと思いますし、そうした活動は先生方もきっと認めてくれると思いますので、是非そういうことを提案してみてくださいと思います。

それでは、時間も大分過ぎてまいりましたが、是非これだけは言っておきたいというような形でほかにご意見がありましたらいかがでしょうか。特に福島高校の皆さん方、改めて最後に何か伝えておきたいと思うことがあれば、いかがですか。では、やはり部長に締めていただくということで、鈴木部長、お願いします。

○福島高等学校 鈴木

部長の鈴木太朗です。今回集まっていたいただいて、お話やプレゼンテーションをさせていただいたのですが、僕というか、福島に住んでいる人からの願いになるのかなと思うのですけれども、まずは福島についてどんなことでもいいから興味を持つということが重要というか、福島の復興を進めることに関して、一番重要なことではないかと思っています。まず興味を持って、そこから踏み込んで、福島についてもっと知りたいというようになってくれば、そこからもうその人は福島の関係者になってくれるので、そういった方々が増えてくれば、もちろん今言ったとおり、福島の復興というのはどんどんいい方向に進んでいくのではないかと思います。

僕がお願いしたいのは、今お話ししたことでもいいのですが、是非とも今日のことをお友達であったり、周囲の方々にお話ししていただいて、それでもしかしたら悪い印象を持つ方もいるかもしれないし、いい印象を持つ方もいるかもしれないのですけれども、とにかくその人たち、今まで興味を持っていなかった人たちに対して興味を持つようなことをしてくだされば、僕たちはうれしいと思っています。

○熊谷千葉市長

ありがとうございます。私も最後の締めの言葉を考えておりましたが、鈴木部長に大

体言っていただきました。やはりどんなことでも関心を持つということと、そして一人でも多くの人にそのことを伝えていくということを一人一人がやっていくことの重要性が、一番今回の意見交換の中で感じられたのではないかと考えております。

いずれにしても、高校生の皆さん方のそれぞれの率直な意見交換には、私たちも大変刺激をいただきました。改めてそれぞれ今回ご出席をいただいた皆さん方に感謝を申し上げますし、また、この場をご用意していただいた事務局の皆様方、林市長に心から感謝を申し上げて、私のファシリテートはここで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○座長（林横浜市長）

ありがとうございます。熊谷市長には高校生の皆さんの自由で率直な意見を引き出していただきました。ありがとうございました。私も熊谷市長のファシリテーターぶりを拝見していたのですが、全く打ち合わせがないという感じで、それに堂々とお答えする高校生の皆さんにも非常に感銘しました。鈴木太郎部長、ありがとうございました。

（２）高校生と首脳の意見交換

○座長（林横浜市長）

さて、今日は九都県市のトップの方たちが集まっております。なかなか高校生の皆さんも直接お話をする機会はないと思いますので、20分程度しか時間はございませんが、これから、自由な意見交換をさせていただきたいと思います。

まず、最初に、各首脳の方に挙手していただいて、今の取組、高校生たちのお話をどのように感じられたか、ご意見があればいただきたいと思います。どなたか口火を切っていただけますでしょうか。では、黒岩知事、お願いいたします。

○黒岩神奈川県知事

神奈川県知事の黒岩祐治です。今の高校生の皆さんのお話を聞いていて、非常に私も感動いたしました。私も震災直後、震災がれきの受け入れに大変苦勞いたしました。是非がれきを受け入れてほしいという話がありましたが、放射線が入っているということで、福島第一原発からはるか離れた横浜と同じぐらいの距離のがれきを持ってくると言ってもだめだということで、非常に厳しい抵抗に遭った記憶がありました。

今日お話を聞いた中で、高校生が自ら調べて発信するということの意義はものすごくあると思いました。自分たちで歩いて、自分たちの思いの中でやってくる。しかもすごい

と違って感心したのは、海外の仲間たちも募ってそれを比較するという発想というのは、我々が高校生のときには全くなかったと思います。そのスケール感というのは非常にすばらしいと思いました。

それと同時に、リクエストとしては、どの部分を調査されたのかというところを見たかったということがあります。福島といわれても広いですし、福島第一原発もあるわけですから、どの部分を調べたかということ、その辺もしっかり見せていただいたほうがむしろよかったのではないかという気はいたしました。

それとともに、みなと総合高等学校の皆さんも、これをきっかけにしてこういう交流を進められたということは私も知らなかったのですが、本当にすごいと思って、聞きながら胸が熱くなるような、そんな思いもしたところがあります。

1つ福島の皆さんにお伺いしたいのですが、僕自身が震災直後に、たまたま私がミュージカルのプロデューサーをやっていて、『葉っぱのフレディ』というのを福島に持っていったことがありました。支援をしたい、頑張ってくれという思いで持っていったのですが、そのときに言われたことが、「同情されたくない」とか、「かわいそうだと思われて、同情されるという感覚は嫌なんです」ということでした。この触れ合い、交流の中で、そういう感じがあるかどうか、その辺をお伺いできればと思いました。

○座長（林横浜市長）

それでは、どなたか答えていただけますか。また部長にお任せしましょうか。鈴木部長、お願いします。

○福島高等学校 鈴木

いろいろな方がいらっしゃる中で、中にはもちろん同情されているとか、そのように受け取る方も、もしかしたらいるかもしれないですが、そういった感情を持っている方が全員ではないということだけはわかっていたきたいと思います。もちろん、そういった支援をしていただけるのは本当にありがたいことですし、中にはそういった方もいるという状況があるのではないかと思います。

○座長（林横浜市長）

ありがとうございました。それでは、小池知事、お願いします。

○小池東京都知事

まず、2つの高校のすばらしい活動、そしてその取組に心から敬意を表します。福島高等学校の皆さん、そしてみなと総合高等学校の皆さん、思いは一つ、復興、そして安

心・安全、そして友情という幾つかキーワードが思い浮かびました。

福島高等学校の皆さんは本当に一番困難な問題に正面から取り組まれて、かつ海外への説得といいましょうか、そういった活動をされたのは本当に素晴らしいと思います。農業、観光、帰還という3つのキーワードを挙げておられました、どれも重要なことだと思います。是非これからも応援してまいりたいと思います。

横浜市立みなと総合高校の復興支援フットサルイベント、これも皆さんの熱い思いがこちらにも伝わってきたような気がします。先輩から後輩、ずっと続いているのですよね。「継続は力なり」という言葉がありますが、是非これからも続けていただきたいと思います。ある意味、スポーツ交流というのは一番なじみやすいし、戦いながらも友情が深まるといういい接点だと思いますので、東京都でも、都立青梅総合高校と都立江戸川高校の高校生が福島の高校生の皆さんと、これはバレーボールを通じて交流しているという例がありますが、こういったことは是非後押しもしていきたいと思っております。

1つ私からのお知らせと、1つ質問があります。お知らせのほうは、東京都ですから、今度オリンピック・パラリンピックの2020年の東京大会があります。今、東京都庁にオリンピックの旗とパラリンピックの旗の2本がそろっています。地球の裏側のリオから私が持ってきた旗ですが、今度は11月2日に福島にフラッグツアーということで、この2本を持って、福島頑張れ、復興頑張れの意を込めて、私自身参ります。丸川オリンピック・パラリンピック大臣にも一緒に行くようお声がけをしました。そして、オリンピック・パラリンピックを通じて、また福島の皆さんに復興頑張らましようというエールを送っていききたいと思っておりますので、楽しみにしていただきたいと思います。もともとオリンピック・パラリンピックの招致の際は、復興五輪と言っていました。改めてその言葉を思い出して、オリンピック・パラリンピックを通じた復興というのも、私は国内のみならず世界中で今、災害が多いですから、いろいろな意味でエールになると、メッセージになると思っておりますので、楽しみに待っていてください。

それから、質問は、みなと総合高等学校の皆さんに1つだけあるのですが、まずこの活動はすばらしく、それも何年にもわたって続けておられて、本当に頑張っておられると思います。そして、その資金は、SNSにも関係するのですが、クラウドファンディングでお金を集められたということがありましたよね。クラウドファンディングでもネットで集める場合と、知り合いに声をかける場合と、いろいろあるのですが、どういう形で集められたのかというのが私の質問です。そうやってお金を出してもらうということは、すな

わちお金を出した方々がコミットというか、それに関与してくださるといふことがあるので、これからの運動といいましょうか、この交流が続くこと、そのバックアップにSNS、クラウドファンディングを使われるといふことは是非進めて、続けていただきたいと思ひます。どのような方法でやられたのか、教えていただけますか。

○座長（林横浜市長）

どなたかおわかりになりますか。柴本さん。

○みなと総合高等学校 柴本

みなと総合高校の柴本です。こちらのクラウドファンディングは、ネットと先生たちの知り合いに流してもらいました。そして、その企画に賛同してくれた方に私たちの手書きのメッセージ、「ありがとうございました」の手紙などをかわりに送らせていただきました。

○座長（林横浜市長）

ありがとうございました。よろしいですか。

○小池東京都知事

やはり資金は重要なので、是非またこれを機会に広めて、次の回に備えていただきたいし、応援しています。

○座長（林横浜市長）

ありがとうございます。森田知事、一言ございますか。

○森田千葉県知事

千葉県の森田健作でございます。高校生の皆さんがこうやって今、プレゼンテーションをやっている、ああ、そうかと、こうなんだと、僕たちもしっかり認識しなければいけないなと思ひました。でも、本当はこういう運動とか、皆さんの活動、皆さんのことが、もっともっと私たちに溶け込んでいなければならないですね。というのは、やはり多くの人に知ってもらおうというのは、その1つのツールとしてテレビがあるし、言うなれば報道もあるわけですね。ところが、これはやむを得ない事情でしょうけれども、テレビや報道機関というのは、事故が起きた、事件が起きたといふときは報道するのですが、その後というのは10分の1ぐらいではないかと思ひくらしいになります。例えば、今、福島県産がこういう放射能の問題になった、それは大変なことです。でも、今は違ふんですよ。今の高校生の皆さんでもこういうことをやっているんですよといふことを、私はもっともっと報道していただきたいと思ひのですが、これは現実の社会としてなかなか難しいです。

だからこそ、私たちは地道に一つ一つやっていかなければいけない。

我が千葉県も被災県ではございますが、先日アクアラインマラソンをやったときも、福島県のランナーの皆さんが20名、東北3県のランナーの皆さんが60名、体験イベントには福島県を含む東北3県のブースを設けたり、特産品を置いたり、いろいろやっているのです。でも、なかなか私たちは皆さんに通じていけない。しかし、ここであきらめてはいけないと思っています。千葉県は大変微力ではございますが、私は今日の皆さんのお話、そして福島の魅力を、これからもより一層多く伝えてまいりたいと思います。

私、実は昭和43年に大学を浪人してから半年間、福島県相馬市に住んでいました。相馬の駅前で何でも10円という小売業をやったり、いろいろなことをやっていたものですから、非常に愛着を持っているところでございます。福島県、頑張ってください！ よろしく願いします。

○座長（林横浜市長）

どうもありがとうございました。それでは、首脳の方に一通りお話を伺ってまいりたいと思います。埼玉県の塩川副知事、よろしくお願い致します。

○塩川埼玉県副知事

こんにちは。知事でなくてごめんなさい。知事、上田清司は、今アセアンに行っていますので、私が代わりに来ました。よろしくお願い致します。

福島高校の皆さんの取組、それから横浜の高校生の皆さんの取組を聞かせていただき、大変感激しました。特に福島の皆さんは、被災されたときは中学生か小学生だったと思います。でも、とても元気なお姿を見て、安心しました。

47都道府県の知事で構成する全国知事会において、実は私どもの知事は、東日本大震災復興協力本部長を務めています。もう9回現地に入って、実際に見させていただいておりますので、そういったことを肌身で感じて、いろいろと政府などに要望活動をしています。

それから、震災のときには双葉町の町役場が埼玉の加須市に来られました。今でも住んでおられる方がいらっしゃいます。埼玉県の県営住宅の入居支援など、一生懸命やっているところですよ。

それともう一つ、風評被害のお話がありました。私どもも例えば、県庁内の食堂で福島県産のメニューを用意させていただくなど福島のPRに努めています。

あと、修学旅行です。前の佐藤知事には埼玉に来てもらいまして、県内の教育長に集

まっていたき、「是非、教育旅行を福島へ。」ということをしてPRしてもらったのですが、今年もPRの機会を設けたいと思っております。

今日のお話は私がしっかりと上田清司知事に伝えますので、どうか皆さん、頑張ってくださいね。ありがとうございます。

○座長（林横浜市長）

どうもありがとうございます。それでは、相模原市の加山市長、いかがでしょうか。

○加山相模原市長

相模原市長の加山です。相模原市といってもあまり知らないと思いますが、神奈川県にあります。全国に指定都市は20ありますが、19番目になった市ということで、ちょっと覚えておいてください。これから我々も頑張っていきたいと思っています。

今日は福島高校さんのプレゼンと、みなと総合高校さんのいろいろな取組を紹介いただきまして、本当に若い人たちが頑張っていることに感銘を受けました。先ほどのいろいろな首脳からのご意見の中でも、PRの方法とか、福島を理解してもらって支援の仕方などいろいろあった中で、鈴木部長のほうから、何も我々から実情を訴えて、有名人等を使って現状を理解してもらって運動を積極的にいっていきましょうか、意図的に企画をするのではなく、要するに、福島のことを本当に応援してくれる、理解してくれる、支援してくれる、そういう輪が広がっていくことが一番大事なのだと、大変心強く感じました。全くそのとおりです。

今、自治体に対しまして、これはちょっと災害とは関係ないのですが、ここにいる首脳は、皆首長をしていますから感じているだろうと思えますけれども、何かがあるとすぐ行政にお願いしたり、何かをお願いしたりということがあり、よりどころとしまして頼っていただくのは大変うれしいわけですが、やはり何かがあったときに自らが頑張っていこうと、そういうお気持ちを持っていただく、それが日本の力になるのだろうと思っております。どうしても今の世の中というのはなれ合いだとか、同じような考え方を持った、群れているといいましょうか、そういう時代にあるのではないかと感じるころがありますが、今日の福島高校さん、福島県下の若い人たちの活動の状況を聞かせていただきまして、これはやはり日本のこれからのあり方といいましょうか、そういったものにもつながるのだろうと思っております。

ただ、こういう大きな災害を受けたときには、皆の連携、助け合いがやはり必要ではないかと思っております。何かがあったら同情で何かを行おうとは我々も思っておりませ

んし、まさに鈴木部長の言っているように、我々自らが何をすべきかということをしっかり考えて、その対策を進めていくということです。

相模原市にも、福島県から被災された方が今現在も生活されております。実は「母ちゃんず」という団体に毎年いろいろな活動をしていただきまして、特に子どもさんたちが夏場ですとか、冬場もそうですが、郊外で活動しています。ただ、先ほどの発表の中では、放射線量はよその地域と比べても安全性は確認されているというお話ですが、まだ福島県下の市民の中にも危険な状態に若干あるのではないかという心配を持っている人もいます。そういった方々を夏休みに招待して、本市の公共的ないろいろな施設がございますので、それを利用して、キャンプを実施しております。またもちろん相模原市民もそれに参加して応援しております。

また、我々も、福島県ですとか、東北の5年前の大災害を教訓にさせていただきまして、指定都市市長会などでも、いわゆる災害時における行動計画をつくりまして、自らがやること、そして連携をどうするかということについても今、深く研究を進めております。我々も今回の東北の被災のときに、一番最初にとった行動は、何でもいいから行って応援しようということで、東北自動車道の高速道路がまだ復旧しないときも、新潟県回りで、我々の姉妹都市である岩手県の大船渡市に支援物資をお届けしたり、人的な支援もさせていただいたということがあったのですが、そのときから感じていることは、やはりいろいろな連携です。先ほど横浜の高校からもお話がありましたが、高校同士の連携ですとか、自治体間連携ですとか、それぞれの地域にも団体がありますので、いろいろな連携を日ごろから進めていくことが災害対策にもなりますし、またいろいろな地域力が高まっていくということにもつながっていくのではないかと感じております。皆様方の福島県の今回の災害を伴ったことに対してのいろいろな広報活動ですとか、災害の復興活動は、これからの地域社会の活性化のためにも大変役立つ、それにつながっていくものと感じているところでございますので、どうか頑張ってくださいと思います。

全部横浜市ですね、桜丘高校、南高校、それと横浜商業高校。林市長はいいですね、若い人が頑張る高校がありまして。私も高校生たちが頑張れるように、今日のことをお伝えしたいと思っております。是非頑張ってください。ありがとうございます。

○座長（林横浜市長）

ありがとうございました。時間も迫ってまいりましたが、高校生の皆さんには、本当に私たちの思いが強いということを感じていただいたと思います。

時間が押しておりますが、少し延長させていただいて、皆様のご意見を伺いたいと思います。それでは、福田川崎市長、お願いいたします。

○福田川崎市長

川崎市長の福田です。今日はどうもありがとうございました。

風評被害に自ら立ち向かうというこの取組に、心から敬意を表したいと思います。ここで1点、横浜の皆さんに質問なのですが、調査をして、福島放射線量と他の地域と、あるいは国外を含めて、同等レベルなのだということを、このプレゼンテーションを見る前、あるいはこの打ち合わせの前から知っていた人というのはどのぐらいいらっしゃいますか。10人中2人。そういう意味でも、今回のプレゼンをしていただいたことには大変な意味があると思います。

先ほど梅木さんが言っていました、同世代の言葉にはやはり響くものがあると思いますので、SNSもあるでしょうし、それ以外の方法でもしっかり、同世代が調べた結果こうなったんだと、私たちと何ら変わることはないということを、やはり広く高校生の皆さんに是非伝えていただきたいなと思います。今、手が挙がったのと同様に、恐らく川崎市内の高校生も同じぐらいの認知度だと思います。私どもとしてもしっかり、皆さんにやっていただいた調査というものを同じ世代同士で共有していくことは大事だと思います。内堀知事が国連に行って発言されることも必要だし、高校生同士で情報を共有していくことも何よりも大事だと思いますので、それぞれの段階でしっかり発信していけるように、皆で努力していきたいなと思います。

福島高校からのプレゼンにあったように、現状を自分の目で見るのが大事だというお話でしたが、私もこの前の5月の九都県市の際に、是非行ってもらって、食べ物を食べてもらうことが、やはり安全以上の安心につながるということで、とにかく行ってもらうということで、スポーツ団体の皆さんに助成して合宿してもらうという取組を始めました。今週末はママさんバレーのチームが行きますし、来月は陸上の子どもたちが福島県でお世話になるといったように、とにかく行ってもらって、福島県で食べてもらって、見てもらってということを経続的にやっていくように取り組んでまいりたいと、これは私からの宣言であります。ありがとうございました。

○座長（林横浜市長）

どうもありがとうございます。では、熊谷市長、お願いします。

○熊谷千葉市長

私は手短に。九都県市で毎年3月になると一斉にそれぞれの広報紙で、福島のことについて復興支援ということで出すのですが、我々千葉市の市政だよりで、福島高校の皆さん方に登場いただいて、皆さん方から伝えたいことを是非千葉市民の皆さんに伝えていたきたいと思っております。そういうことにご協力いただけますでしょうか。

それから、我々は修学旅行についても、他の九都県市の皆さんと同じように訴えているわけですが、最後は校長が判断するというよりも、それぞれ行く高校生やその保護者たちが判断してまいりますので、先ほど梅木君から話がありましたが、同じ世代から福島に修学旅行をする意味と楽しさについて、これもビデオメッセージなのか、ほかの形なのかはまたご相談させていただきますけれども、そうした形で皆様方にご協力をいたきたいと思えます。これは福島県さんを通してお願いさせていただきますので、是非よろしくお願ひいたします。また、他の九都県市でもご賛同いただいて、同じようなことをしていただければ大変ありがたいと思っています。

○座長（林横浜市長）

とてもいいプランだと思います。ありがとうございます。

6 まとめ

○座長（林横浜市長）

それでは、最後に福島県の鈴木副知事、全体を通して、是非、ご発言をお願いしたいと思います。

○鈴木福島県副知事

それでは、お話をさせていただきます。

みなと総合高等学校の皆さん、本当に福島県の高校生の皆さんと交流を続けていただきまして、ありがとうございます。心より感謝を申し上げます。フットサルというスポーツを通じて交流していただいているわけですが、私自身も震災以降、特にスポーツの持つ力の大きさというものをいろいろな場面で感じる場合があります。スポーツを通じて県民の皆さんに勇気や感動、そして元気を与えてくれるという場面がたびたびありました。是非今後ともそうした交流を続けていただけると大変ありがたいと思っています。

それから、横浜の高校生の皆さんに言われた言葉、情報発信のありようで印象に残っているのは、今、川崎市長さんもおっしゃったように、同世代の言葉が響くということに私も非常に感銘を受けています。そして、SNS、インスタグラムを活用した方法である

とか、学校間の交流であるとか、情報発信の方法は様々にきめ細かく今後我々も考えていかななくてはならないと思っております。

福島の高校生が最後に言いましたように、福島現状を理解してもらうために、やはり皆さんもおっしゃっていますように、とにかく実際に自分の目で見ていただくというのが一番だと思っております。福島に来て、見て、触れて、食べていただくことが福島の現状を理解していただく鍵になると思いますので、是非とも皆さん福島においでいただき、実際に福島の様々なことに触れていただければ大変ありがたいと思っております。本当に今日はありがとうございます。

○座長（林横浜市長）

どうもありがとうございました。そろそろこの会は終了ですが、本日の意見交換会が首都圏の若者の皆さんにとって、震災のことや被災者のことを改めて考えるきっかけとなっていくこと、福島と首都圏の若者の皆さんが絆を深めて、お互いの交流が一層盛んになることを本当に期待しますし、進めてまいりたいと思います。

本当に高校生の皆さん、ありがとうございました。

私たち首長も、全員が改めて皆様のプレゼンテーションに心を動かされ、私たちの役割をしっかり務めてまいりたいと本当に決意いたしました。

今、大変いいお話が熊谷市長からもありましたが、これからもまた、いろいろな媒体等々、それから私どもの事務局がそれぞれありますけれども、皆様と交流して、情報交換をしながら福島の復興に向けて、手をつないで頑張ってまいりたいと思います。

本当に皆様のおかげで大変すばらしい意見交換になりました。心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

7 閉 会

○事務局

皆様、どうもありがとうございました。この後、集合写真の撮影となります。撮影の準備をいたしますので、高校生の皆さん、首脳の皆様、もうしばらくお待ちいただきたいと思っております。